

平成 26 年度 自己点検・評価報告書

平成 26 年度

動物実験に関する自己点検・評価報告書

京都大学動物実験委員会

平成 27 年 8 月

I. 規程及び体制等の整備状況

1. 機関内規程

1) 評価結果 ■ 基本指針に適合する機関内規程が定められている。 □ 機関内規程は定められているが、一部に改善すべき点がある。 □ 機関内規程が定められていない。
2) 自己点検の対象とした資料 京都大学における動物実験の実施に関する規程（平成19年2月5日達示第25号制定）
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 機関内規程が適正に定められている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

2. 動物実験委員会

1) 評価結果 ■ 基本指針に適合する動物実験委員会が置かれている。 □ 動物実験委員会は置かれているが、一部に改善すべき点がある。 □ 動物実験委員会は置かれていない。
2) 自己点検の対象とした資料 ・ 京都大学における動物実験の実施に関する規程（平成19年2月5日達示第25号制定） ・ 部局動物実験の実施に関する要項、内規等 ・ 全学動物実験委員会名簿 ・ 部局動物実験委員会名簿
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 全学動物実験委員会及び部局動物実験委員会が適正に運営されている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

### 3. 動物実験の実施体制

1) 評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。 <input type="checkbox"/> 動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 動物実験の実施体制が定められていない。
2) 自己点検の対象とした資料 ・ 京都大学における動物実験の実施に関する規程（平成19年2月5日達示第25号制定） ・ 部局動物実験の実施に関する要項、内規等
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 全学動物実験規程及び部局動物実験規程が適正に定められている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

### 4. 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制

1) 評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制が定められている。 <input type="checkbox"/> 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制が定められていない。 <input type="checkbox"/> 該当する動物実験は、行われていない。
2) 自己点検の対象とした資料 ・ 京都大学における動物実験の実施に関する規程（平成19年2月5日達示第25号制定） ・ 部局動物実験の実施に関する要項、内規等 ・ 組換えDNA実験安全管理規程 ・ 組換えDNA実験安全管理規程施行規則
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 全学動物実験規程、部局動物実験規程、組換えDNA実験安全管理規程、及び組換えDNA実験安全管理規程施行規則が適正に定められている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

5. 実験動物の飼養保管の体制

1) 評価結果 ■ 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・ 京都大学における動物実験の実施に関する規程（平成19年2月5日達示第25号制定） ・ 部局動物実験の実施に関する要項、内規、基準、マニュアル等
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 全部局において規程、マニュアル等が整備されている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

6. その他（動物実験の実施体制において、特記すべき取り組み及びその点検・評価結果）

該当せず。
-------

II. 実施状況

1. 動物実験委員会

1) 評価結果 ■ 基本指針に適合し、適正に機能している。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・ 京都大学動物実験委員会議事要旨（平成25年8月28日） ・ 京都大学動物実験委員会議事要旨（平成25年10月28日） ・ 京都大学動物実験委員会議事要旨（平成25年12月9日）
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 「京都大学における動物実験の実施に関する規程」に基づき、適正な活動を実施している。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

## 2. 動物実験の実施状況

1) 評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・動物実験計画承認報告書 ・動物実験結果報告書 ・自己点検報告書（動物実験実施状況）
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 動物実験計画書の立案、審査、承認、結果報告が適正に実施されている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

## 3. 安全管理を要する動物実験の実施状況

1) 評価結果 <input type="checkbox"/> 基本指針に適合し、当該実験が適正に実施されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。 <input type="checkbox"/> 該当する動物実験は、行われていない。
2) 自己点検の対象とした資料 ・動物実験計画承認報告書 ・動物実験結果報告書 ・自己点検報告書（動物実験実施状況）
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 医学研究科、薬学研究科、霊長類研究所で、針刺し3件、薬剤暴露1件、マウスによる咬傷1件の計5件の事故が報告されているため。
4) 改善の方針、達成予定時期 各部局にて制定されている行動指針やマニュアル等の遵守を徹底させる。

4. 実験動物の飼養保管状況

1) 評価結果 <input type="checkbox"/> 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・自己点検報告書（飼養保管施設管理状況） ・自己点検報告書（実験室管理状況）
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 霊長類研究所において、ニホンザルが敷地内で一時逸走した件が報告されているため。
4) 改善の方針、達成予定時期 適切な麻酔処置、ケージ運搬時の施錠等の実験の手順について、周知徹底を実施済。

5. 施設等の維持管理の状況

1) 評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に維持管理されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・飼養保管施設設置承認報告書 ・実験室設置承認報告書 ・自己点検報告書（飼養保管施設管理状況） ・自己点検報告書（実験室管理状況）
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 機関内の飼養保管施設は、適正に維持管理が実施されている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず

6. 教育訓練の実施状況

1) 評価結果 ■ 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 京都大学における動物実験教育訓練実施状況（平成26年度） （参加人数 延べ <u>1, 124</u> 人、実施回数 <u>68</u> 回） 別紙1のとおり
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 実験動物管理者、動物実験実施者、飼養者等に対する教育訓練が適正に実施されている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

7. 自己点検・評価、情報公開

1) 評価結果 ■ 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・動物実験に関する自己点検・評価報告書 ・京都大学動物実験委員会ホームページ
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 自己点検・評価、情報公開は適正に実施されている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

8. その他

(動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項及びその結果)

1) 京都大学における動物実験委員会の構成

- ・第6条第1号に掲げる委員：教授14名、准教授3名
- ・第6条第2号に掲げる委員：教授1名
- ・役割ごとの委員の所属部局：別紙2のとおり

2) 部局動物実験委員会の構成（全部局の合計数）

京都大学における動物実験の実施に関する規程第9条による部局動物実験委員会

教授 61 名、准教授 56 名、講師 9 名、助教 16 名

その他 9 名（オブザーバー3名、技術職員2名、事務職員1名、特定職員1名、学外2名）

3) 京都大学における動物実験の実施における自己点検・評価に関する報告書の集計について

別紙3のとおり

4) 動物種ごとの飼養数の集計について

別紙4のとおり

## 動物実験教育訓練実施状況(平成26年度)

部局名	教育訓練 実施回数	参加人数 (延べ)	実施日
文学研究科	1	30	5/8
理学研究科	1	45	4/22
医学研究科	3	246	5/28、10/7、3/18
薬学研究科	2	91	4/11、10/1
工学研究科	2	62	4/21、10/30
農学研究科	5	88	4/24、5/23、10/27、11/25、2/13
人間・環境学研究科	1	5	5/16
情報学研究科	1	5	6/3
生命科学研究科	2	24	4/17、10/15
化学研究所	1	4	5/8
再生医科学研究所	4	102	4/1、4/9、9/24、1/7
ウイルス研究所	7	46	4/16、4/30、6/2、7/9、9/22、9/25、1/21
原子炉実験所	0	0	対象者は所属部局で受講
霊長類研究所	32	124	4/2、4/3、4/4、4/17、5/7、5/15、6/10、 6/16、6/23、7/7、7/8、9/1、9/8、9/12、 9/25、9/26、10/20、11/13、11/17、12/10、 12/11、1/13、1/28、2/3、2/6、2/9、2/17、 2/18、2/20、3/9、3/13、3/20
物質－細胞統合システム拠点	0	16	DVD貸出により、随時実施
iPS細胞研究所	0	45	再生研の教育訓練を受講
野生動物研究センター	3	14	9/24、12/2、1/16
環境安全保健機構 附属放射性同位元素総合センター	3	177	4/2、4/3、5/30
合計	68	1124	

## 実施内容:

- ①関連法規、指針、本学の規程等の説明
- ②動物実験等の方法に関する基本事項
- ③実験動物の飼養・保管に関する事項および安全管理に関する事項
- ④申請書の書き方等の説明

## 京都大学動物実験委員会の構成

平成26年4月1日現在

		所 属	職 名	役割※	専門分野
1	1号	文学研究科	教 授	①	実験心理学
2	2号	法学研究科	教 授	③	国際法学
3	1号	理学研究科	准教授	①	動物行動学、爬虫類学、 自然史学
4	1号	医学研究科	教 授	①	医化学
5	1号	薬学研究科	准教授	①	神経薬理学
6	1号	工学研究科	教 授	①	分子生理学
7	1号	農学研究科	教 授	①	食品生物科学
8	1号	人間・環境学研究科	教 授	①	共生人間学
9	1号	情報学研究科	教 授	①	生物圏情報学・畜産学
10	1号	生命科学研究科	准教授	①	高次生命科学
11	1号	化学研究所	教 授	①	環境物質化学
12	1号	再生医科学研究所	教 授	②	実験動物学、分子生物学
13	1号	ウイルス研究所	教 授	①	生体応答学
14	1号	原子炉実験所	教 授	①	放射線腫瘍学、腫瘍治療学
15	1号	霊長類研究所	教 授	②	実験動物学・分子寄生虫学
16	1号	iPS細胞研究所	教 授	①	実験病理学
17	1号	野生動物研究センター	教 授	①	比較認知科学
18	1号	環境安全保健機構 附属放射性同位元素総合センター	教 授	①	細胞生物学・生物工学 ・放射線安全管理学

※役割とは、文部科学省の指針に示された以下のことを示す

- ①動物実験等に関して優れた識見を有する者
- ②実験動物に関して優れた識見を有する者
- ③その他学識経験を有する者

動物実験の実施における自己点検・評価に関する報告書集計表（平成26年度）						
部局名	動物実験計画書の審査のまとめ			動物実験 従事者数及び 飼養者数	飼養保管施設 の設置状況	飼養保管施設 から独立した 実験室
	許可件数	改訂後許可 件数	不許可・ 取下げ件数			
文学研究科	44	0	0	42	3	3
理学研究科	25	1	0	98	11	15
医学研究科	441	30	0	2,968	8	70
薬学研究科	63	15	0	240	4	20
工学研究科	15	0	0	261	3	3
農学研究科	80	11	1	1,399	14	29
人間・環境学 研究科	11	0	0	81	2	1
情報学研究科	8	0	0	52	2	1
生命科学研究科	19	5	0	135	5	10
化学研究所	1	0	0	5	1	1
再生医科学研究所	161	61	0	300	8	27
ウイルス研究所	51	5	0	190	7	19
原子炉実験所	27	0	0	82	3	4
霊長類研究所	132	89	3	624	26	25
物質-細胞統合 システム拠点	19	2	0	101	3	10
iPS細胞研究所	46	23	0	259	1	17
野生動物研究 センター	1	0	0	22	1	0
環境安全保健機構 附属放射性同位元 素総合センター	26	0	0	86	1	3
合 計	1,144	242	4	6,859	102	255

主要な飼養保管施設の名称：医学研究科附属動物実験施設、再生医科学研究所附属再生実験動物施設、ウイルス研究所本館動物飼養保管施設、霊長類研究所人類進化モデル研究センター、iPS細胞研究所附属動物実験施設

動物種ごとの飼養数(平成26年度)

動物種名	文学 研究科	理学 研究科	医学 研究科	薬学 研究科	工学 研究科	農学 研究科	人間・環 境学研究 科	情報学 研究科	生命科学 研究科	化学 研究科	再生医科 学研究科	ウイルス 研究所	原子炉 実験所	霊長類 研究所	物質・細 胞融合シ ステム観 点	iPS細胞 研究所	野生動物 研究 センター	放射性同 位元素総 合セー ター	合計
マウス	0	13	59,967	7,905	1,251	1,318	76	41	1,082	0	9,438	6,415	166	0	5,162	3,128	0	710	96,672
ハムスター	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
モルモット	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	8	5	0	0	0	0	0	0	30
ラット	55	1	5,365	33	173	101	302	0	12	1	120	0	12	0	0	207	0	320	6,702
ヤマネ	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
デグー	32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	32
ウサギ	0	0	153	6	0	0	0	0	0	0	45	0	0	0	0	2	0	0	206
イヌ	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0	192	0	0	0	0	0	0	0	207
オボッサム	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
ブタ	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
ヤギ	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
ヒツジ	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
ウシ	0	0	0	0	0	119	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	119
サル類 (類人猿除く)	24	0	9	0	0	0	2	0	0	0	1	48	0	1,209	0	19	0	0	1,312
類人猿	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	0	0	62	0	78
鳥類	39	36	0	0	10	10	0	0	616	0	0	0	0	0	0	0	0	0	711
爬虫類	0	112	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	112

(例)100頭を200日飼養した場合 100頭×200日=20 飼養数=20,000頭/365日=54頭(頭未満切り捨て、1未満は1とする)